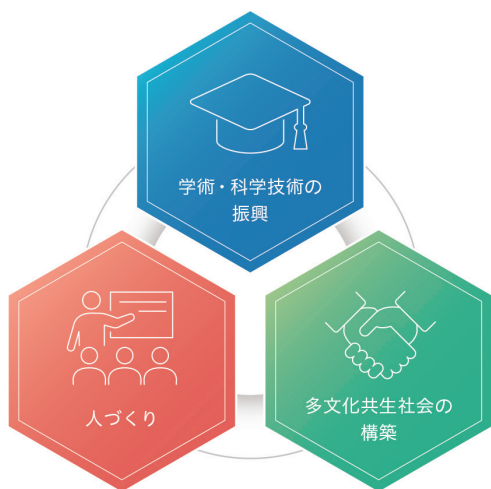


日立財団のご案内



人を育み、未来へ繋ぐ。

日立財団は、社会が直面する社会課題の中で「学術・科学技術の振興」「人づくり」「多文化共生社会の構築」の3つを中核領域とし、持続可能な社会の構築や国民生活の向上、さらには国際社会への貢献をめざしています。



学術・科学技術の振興

時代の潮流を見据えた自然科学・工学、人文社会科学分野に対する研究助成等と、アジアにおける研究開発表彰を行います。

- 倉田奨励金
- 日立財団アジアイノベーションアワード
- 日立財団科学技術セミナー
- 日立感染症関連研究支援基金

人づくり

創造的で社会をデザインする次世代の人財育成を支援します。特に、STEAM教育や理工系女子育成の支援を重点化して行います。

- 日立みらいイノベータープログラム
- 理工系女子応援プロジェクト

多文化共生社会の構築

多様な立場や価値観を認め合い生き生きと一体となって生活するインクルーシブ社会の実現に向けた社会啓発を行います。

- 多文化共生社会の構築

学術・科学技術の振興

倉田奨励金

倉田奨励金は、日立製作所の第二代社長、故倉田主税が日本の科学技術の発展を願って設立を提唱し、資金を出捐したことにより1967年に創設された研究助成金です。科学技術の多くを海外に頼らなければならなかった当時、「世界に通用する自主技術の確立」という倉田の思いから始められたもので、これまで受領された多くの方々はその後、目覚ましい業績を挙げられ、研究者・教育者として第一線で活躍されています。

科学技術が目覚ましく進歩し、科学技術振興の目標が社会的役割へと変わってきた現在は、倉田の理念を守りながら、グローバルな社会課題解決力を担う次世代の研究者による自然科学・工学研究、および高度科学技術社会に通底する人文・社会科学研究に対して助成を行い、持続可能な未来社会の実現に貢献しています。また本奨励金による研究成果は研究報告会の開催、倉田奨励金研究報告書の発行により広く公表しています。



自然科学・工学研究部門

研究期間 1～2年間

国際的な視野で社会課題の解決に資する、若手研究者(45歳以下)による独創的、先駆的な研究。募集は下記3分野とし、自然科学・工学研究の観点による文理融合研究も対象とします。

I. エネルギー・環境

II. 都市・交通

III. 健康・医療

人文・社会科学研究部門

研究期間 1年間

科学技術の進歩がもたらす社会の変容、その背景に潜む複合的な諸問題を人文・社会科学の視点(社会、文化、歴史、哲学、倫理、法律、経済、心理学、文化・芸術等)から読み解き、科学技術の発展の意味や価値と社会のあり方を探求する研究。科学技術と社会を俯瞰的・構造的に捉えた研究や、人間性・社会システムといった観点によるアイデアを求めています。

スケジュール

7月～9月

募 集

1月

助成決定

3月

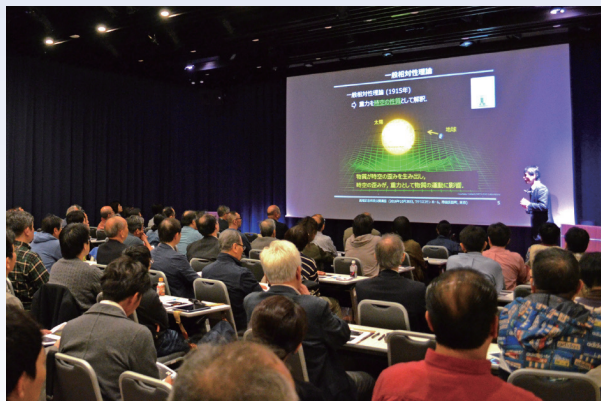
贈呈式

日立財団科学技術セミナー



一般の方が最新の科学技術に触れる機会を提供するセミナーです。科学の面白さや科学の目で見える大切さを、幅広い年代の方々に感じていただくことを目的として、最先端の研究に携わっている研究者や当財団の研究助成「倉田奨励金」の受領者などを講師にむかえ開催しています。

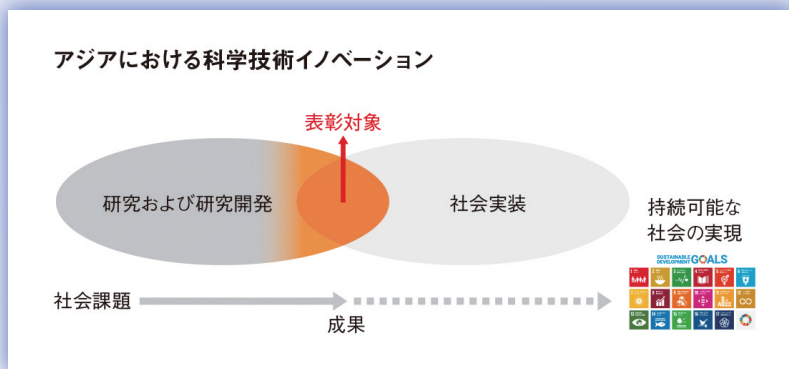
医学、工学、生命科学、地球・宇宙科学、情報工学など、毎回多彩な分野からホットなテーマを取り上げ、わかりやすく解説しています。また事前に参加者からの質問を募集して紹介するなど、活発な質疑応答による双方向のコミュニケーションでより深く理解していただけるよう工夫を凝らしています。



日立財団アジアイノベーションアワード



近年のASEAN諸国の経済発展、科学技術の水準の向上を踏まえ、地域の社会課題解決と持続可能な社会実現に資する科学技術イノベーションの促進を支援するため、2020年度から、SDGs達成に貢献する優れた研究および研究開発の成果を表彰しています。



表彰内容

- 最優秀賞 (最大2件)**
賞金 300万円
- 優秀賞 (最大10件)**
賞金 100万円
- 奨励賞 (最大10件)**
賞金 50万円



募集内容

SDGsの17ゴールおよび169ターゲットの中から、毎年2つのゴールといくつかのターゲットを選定し、これらに貢献する研究および研究開発の成果を募集します。また、自国やASEANのあるべき社会像を描いた、成果の社会実装計画も提出いただきます。

応募対象

募集内容に合わせて、毎年、ASEAN10か国の中から、対象国、対象大学および研究機関を選定し、各大学および研究機関より応募者を推薦いただきます。応募者は、個人またはグループで、対象大学または研究機関に所属する研究者、教員、学生です。

スケジュール



日立感染症関連研究支援基金



新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) のパンデミックが世界各国で甚大な人的・経済的・社会的影響を及ぼすとともに、その対処を通して政治・経済、法制度、科学技術、国際関係など様々な分野において多くの脆弱性や課題が浮き彫りになりました。日立財団は、日立製作所ならびに同社役員や社員、グループ会社役員からの寄付により、「日立感染症関連研究支援基金」を設立しました。本基金は、COVID-19 禍への対処において顕在化したさまざまな問題をエビデンスに基づき学術的に調査、分析、考察し、その知見を国際的に共有することをめざす研究に対して助成するものです。助成対象研究プロジェクト 5 件を採択後、2021 年 12 月から 3 年間の予定で研究活動が進められています。

主要応募条件

- 複数の研究者による共同研究提案であること。
- 研究代表者は、日本国内の大学や研究機関 (株式会社は除く) に所属していること。
- 研究チームには、必ず海外の大学または研究機関に所属している研究者が含まれていること。

助成分野

臨床研究や生物医学的研究ではなく、COVID-19 禍が市民生活、政治・経済、法制度、科学技術、地域社会、国際関係などに及ぼした影響についての人文社会科学、政策科学、社会医学的側面からの調査分析や国際比較調査分析などとします。必ずしも COVID-19 の感染症に限定するものではありません。

助成金

総額 1 億 5,000 万円

助成期間

2021 年 12 月から 3 年間

スケジュール

| | |
|-----------|----------------|
| 2021年4月1日 | 募集開始 |
| 2021年12月 | 助成開始 |
| 2022年1月 | 採択研究概要発表会 |
| 2023年3月 | 中間報告 (1 回目) |
| 2024年3月 | 中間報告 (2 回目) |
| 2025年2月 | 研究成果発表会・シンポジウム |
| 2025年8月以降 | 研究報告書発行 |

人づくり

日立みらいイノベータープログラム



日立財団は、日立みらいイノベータープログラムを、未来を担う児童たちの、探究的な見方・考え方と、よりよく課題を解決するための資質・能力の育成を目的に開発しました。身の周りにある様々な問題に対し、自ら課題を発見し、自ら考え、主体的に判断し、問題を解決できる「問題発見・課題解決の力を育てる探究的な学習」プログラムです。無償で提供する教材をもとに、スキルトレーニングを行い、「理想の学校」をテーマに、自分たちで設定した課題にグループで取り組みます。その課題に対し、日立グループ社員が講師として、児童たちのアイデアに対し、アドバイスをしながら学びをサポートします。

フェーズ 1 授業回数 6 回

スキルトレーニング

学校のリーダーとして、必要なスキルをトレーニング!

※朝学習や家庭学習でもお使いいただけます。

出張授業 1 回目
動機づけ

フェーズ 2 授業回数 8 回

探究学習「理想の学校をつくらう！」

理想の学校づくりをテーマに、自分たちで見つけた課題を設定し、グループで探究学習に取り組みます。

各グループの探究に対して、日立社員がプロのイノベーターとしてアドバイスをいたします。

出張授業 2 回目 課題設定
出張授業 3 回目 中間発表
出張授業 4 回目 最終発表

実施期間 約 4 か月 (週 1 回の実施を目安に、14 時間分の指導案・教材を用意しています。)
※各学校の計画に応じてアレンジして実施いただいてもかまいません。

最終成果物 児童による学校の課題解決案 (プレゼンテーション)

理工系女子応援プロジェクト



理工系人材育成の一環として、女子中高生の理工系進学モチベーションを支援するため、理工系出身のトップランナーや、技術者・研究者として第一線で活躍している方のインタビューを紹介するほか、体験型イベントなどを開催しています。イノベーションの楽しさや、素晴らしさを感じてもらい、未来の理工系女子を増やすため、啓発事業を展開しています。

理工系女子応援サイト「わたしのあした」は、人財の多様性の実現と、それによるイノベーション促進への貢献をめざしています。先輩たちの体験談やライフスタイルに触れ、多くの方が理工系分野に興味・関心を持ち、未来の「わたし」を見つけるきっかけとなることを願っています。

2024年7月実施 第10回パイオニアトーク&ワークショップ 未来を変える理工系女子のお仕事～女性が活躍するエネルギー分野について～



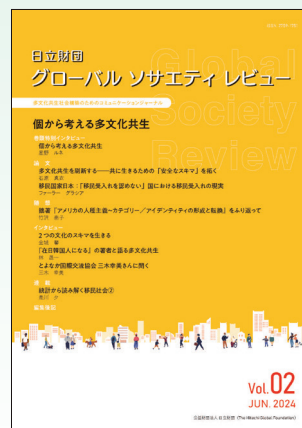
多文化共生社会の構築

多文化共生社会の構築



「多文化共生に関連する学術分野の有識者が相互に専門性を生かし、意見交換や発展的な交流ができる多文化共生社会(※)構築のプラットフォームとなる、電子ジャーナル「日立財団 グローバル ソサエティ レビュー」を発行しています。専門領域を超えた有機的な交流と、学術分野における新たな発想や視点の醸成に貢献すると共に、当事者の経験や活動を紹介し、日本における多文化共生社会への理解と発展をめざしています。

※「国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的ちがいを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていく社会」(出展:総務省作成「多文化共生の推進に関する研究会報告書～地域における多文化共生の推進に向けて」(2006年3月))



倉田記念日立
科学技術財団

国産技術振興会
/1967年

日立みらい財団

青少年更正福祉センター
/1967年
矯正福祉会/1971年

小平記念日立
教育振興財団

小平記念会
/1971年

日立環境財団

公害調査センター
/1972年

日立国際
奨学財団

1984年

2015年度

公益財団法人日立財団発足(4月1日)
「学術・科学技術の振興」「人づくり」「地域コミュニティ支援」を中核領域に設定

2016年度

日立の財団活動50周年(3月29日)
「日立みらいイノベータープログラム」開始
「理工系女子応援プロジェクト」開始
「倉田奨励金」リニューアル
「日立サイエンスセミナー」開始(～2017年度)
「Webマガジン『みらい』」「社会をみつめるシンポジウム」開始(～2018年度)

2017年度

「日立財団50年のストーリー『みちのり』」制作

2018年度

「学術・科学技術の振興」「人づくり」「多文化共生社会の構築」を中核領域に改編

2019年度

「『多文化共生社会の構築』シンポジウム」開始
「高尾記念科学技術公開セミナー」を「日立財団科学技術セミナー」に改称
「倉田奨励金」の助成対象に人文・社会科学研究分野を追加

2020年度

「日立財団アジアイノベーションアワード」開始

2021年度

「日立感染症関連研究支援基金」開始
事務局長のもと「広報グループ」を設置

2022年度

「『多文化共生社会の構築』シンポジウム」を「多文化共生社会の構築」に改称

2023年度

「多文化共生社会の構築」において「日立財団 グローバル ソサエティ レビュー」発刊開始

